

高岡教区

教区報

2015

11月号

念仏のこころに生きる生活を

今年も被災地に新米を！ ～仏婦連盟支援活動～

だが、この半年余りで急激に減り、

去る十月十九日から二十一日にかけて高岡教区仏教婦人会連盟支援米ボランティア

空室も目立った。

が行われ、参加者十一名が宮城県名取市にある津波で多数の死者を出した閑上地区にお住いの方々が避難されている愛島東部仮設・箱塚桜仮設を訪問し、仏婦各単体会より提供された富山米の新米をお配りした。

途中、行きかう仮設住宅の方々から何度も「今年もありがとうございます」「毎年おいしいお米をいただいております」「毎年おます」とお礼を述べられることがあり、継続的に取り組んでいることを、仮設の方がきちんと覚えておられることが印象的であった。

この支援米ボランティアは二〇一二年より開始され、今年で四回目を迎えるもの。

作業終了後、集会所で仮設の皆さんと交流会の場を設け、富山から持ってきた福光のおかきや、仮設の皆さんが持ち寄った漬物をお茶づけに茶話会を行った。会話が盛り上がるうちに、今回の震災での避難生活

十九日午前中に高岡教務所を車二台で出発し宮城県仙台市へ。翌二十日、最初に愛島東部仮設

りがきつかけとなって創られた「名取風来」というヨサコイ音頭の踊りも披露していただき、終始笑い声の絶えない交流会となった。ただ、「こうやって集会所で話したりしているときは楽しいけれど、自分の部屋に帰って一人できると寂しくなる」と言われたことが印象に残った。

に向かい、百十六世帯に一軒個別に訪問しお米をお渡した。

愛島東部仮設の皆さんが車が見えなくなるまで手を振っておられる中、出発、箱塚桜仮設に向かう。こちらは前日に送ったお米が手違いですでに七十世帯全てに配られていたので、急遽、交流会ということで茶話会を行った。

訪問時点では百七十六世帯が避難生活を送っておられ

最初はお互いに人見知りをしていて感じだったが、そのうちに自然に会話が盛り上がり、それぞれが思い思いに会話を楽しんでおられた。この箱塚桜仮設も昨年に比べると戸数が減少しており、お話しした方の中にも来月には出て行くという方もおられた。ただし、仮設を出られたからといって必ずしも問題が解決するという訳ではない一方で「皆、何らかの問題を抱えています。しかし、この仮設に居る内は知り合いがいるし、集会所で談笑もできるからまだいいが、この仮設を出て行くとそのつながりも消え、孤立無援になる」「今残っているのはほとんどが高齢者。私もこの歳になって今さら口を組んで震災復興住宅に入ろうという気にはならない。このまま人が出て行けばこのコミュニティも維持できなくなる。私は最後まで残って皆を見届けるつもりです」という悲壮な決意をされている方もおられた。

り開始され、今年で四回目を迎えるもの。

お連れ合いが病気となり、その介護がある中、僅かな時間を工面して集会所にわざわざ挨拶に来られる方もおり、愛島東部・箱塚桜仮設ともに今までの継続的な支援活動があったからこそ、今回の交流会のような関係を築くことができたのではないかと思われる。

十九日午前中に高岡教務所を車二台で出発し宮城県仙台市へ。翌二十日、最初に愛島東部仮設

次ページへ



お連れ合いが病気となり、その介護がある中、僅かな時間を工面して集会所にわざわざ挨拶に来られる方もおり、愛島東部・箱塚桜仮設ともに今までの継続的な支援活動があったからこそ、今回の交流会のような関係を築くことができたのではないかと思われる。

次ページへ

～ 人事のご報告 ～

4月1日付で宗派より出向でありました金山教照さん（射水組蓮照寺衆徒）が、10月1日付で高岡教区教務所職員として配属されることになりました。役職は、出向時と同じく高岡教区教務所主事です。

また、9月13日付で清水朗慶賛事が退職をされましたことご報告申し上げます。

教区内の皆様におかれましては、今後ともよろしくお願いいたします。

箱塚校仮設を出発後、仮設の方がお住まいであった閉上地区を通ると、震災復興住宅が立ち並び、復興が進んでいる感があったが、より被害が深刻であった若林区に入ると風景が一変し、荒れ果てたままの田畑、未だガラスが割れ放置された校舎、基礎しか残っていない住居跡など、震災発生一年後とほぼ変わらない状況であった。

最後に、多数の遺体が発見された若林区荒浜に建立された慰霊碑と観音像を訪れ、未だ災害復興車両が行き交う中、参加者全員で讃佛偈をお勤めし、亡くなった多くの方に思いを馳せ、今回の活動を終えた。

高岡教務所では今年度もカレンダーの注文を受け承ります。

お電話で注文頂ければご寺院宛に配達を致します。

担当の高島までご連絡ください。

法語カレンダー	・・・150円
ほのぼのカレンダー	・・・150円
月々のことば	・・・700円
心に響くことば	・・・120円

平成27年度 教区賦課金(後期分)納入について

5月当初にお知らせ致しました告知書の通り今年度の教区賦課金（後期分）の納入期限は12月25日（金）迄となっています。できるだけ早期の納入をお願い致します。

高岡会館報恩講お初夜「親鸞聖人を語る夕べ」

期日 11月25日（水）午後7時～9時 午後6時より「うどん」のお齋があります

内容 第1部 音楽法要（宗祖讃仰作法）

第2部 パネルディスカッション

テーマ「親鸞聖人の魅力を語る」

（詳しくは同封のチラシをご覧ください。）

西本願寺高岡会館 報恩講法要のご案内

下記の通り高岡会館の報恩講を勤めます。お誘いあわせてお参りください。

日時：11月26日（木） 日中 午前10時・逮夜 午後1時半

布教： 嵩尾憲昭師（氷見市専徳寺住職）

講題： 『我、必ずしも聖にあらず』

お昼にお齋（お弁当）を準備しております。午前・午後あわせてお参りください。

御同朋の社会をめざす運動の「コーナー」

「日本の戦争展」によせて

安保関連法案が国会を通過してしまいました。国の行く末と、幼い子どもたちの将来を案ぜずにはいられません。

七十年前の敗戦にいたるまでの日本の戦争と教団の歴史をたどるとき、「沈黙は容認と追隨を意味する罪悪」であり、「無知と無関心はそこにおとしれる罌」であることが痛感されます。そしてまた、「このことは部落問題をはじめとするあらゆる差別にもあてはまるといふことを、度重なる同朋研修会で学んできました。

殊に注意しなければならないことは、「僧侶である」ことにまつわる「特殊身分意識」ともいべきものの「足かせ」です。「僧侶は政治的なことに口を出すべきではない」「党派的な枠を超えて存在する門信徒に支えられ、あらゆる人々を受け入れるべき立場なのだから」という意識は、僧侶・門徒に共通するように思われます。

しかし、これでは一国民・一市民としての人権すら認められない特殊な存在といふことになってしまいます。

幕末から明治にかけて、僧侶とその家族は檀徒の信施を貪る「無用の遊民」であるとの批判にさらされ、これに対抗するためにキリスト教の侵入を防ぎ列強の侵略を防ぐ護国の宗教であること、門信徒に往生浄土の道を示すとともに、領民を善導し皇国の忠良を育成する教導職たるものであるとして、「真俗二諦」の宗教を掲げたのでした。その結果がとめどもない軍国日本への協賛につながったのです。すべてが、僧侶といふ身分を守るための「もがき」であったと見ることも可能です。

「たとひ牛盗人とは呼ばるとも、仏法者後世者とみゆるようにふるまうべからず」という宗祖の遺戒、蓮如上人の掟が思い起こされます。愚鈍と嘲られながら一庶民として念仏に生きた加古の教信沙弥こそ、わたしたちの範であるとの示唆ですが、この掟のもとに一揆をもってみずからの生きる道を開いた先人たちの勇気を忘れたくないものです。

太平洋戦争は突然に始まったのではなく、そこに至るまでの戦争の連鎖を背景にしたものであることを知ります。先の十五年にわたる戦争を、侵略戦争として反省していく視点をもつならば、明治維新に始まる近代日本国家形成のあり方全体を反省しなければならぬことに気づきます。明治以降の日本の対外政策は、一貫して国家独立と自衛という名のもとでの侵略政策であったからです。

しかし、この明治以降の歴史全体が侵略の歴史であったという見方は、それが侵略であったことを認めない立場の人にとっては、日清・日露戦争を経ながら強国とわたり合い日本国家の形成のために尽くした先人の名誉を傷つけるものであるとも感じられることでしょう。

日本の歩んできた明治維新以降の戦争の歴史が、侵略であったから悪であるのか、国家独立と自衛のためであり正当であったのかではなく、戦争そのものが間違はなく悪であって正当化される戦争などあり得ないという視点を明確にすることこそが、私たち宗教者がこの戦争展を開催することに託した意味です。それは、かつて日本の仏教者が祖師の教えを封印、あるいは歪曲して、国策に追隨し戦争に協力してきたこと、自国の利益のみを追求する皇国日本のありようを問い得なかったことに対する痛切な反省に立とうとすることでもあります。


今こそ、あらゆる戦争・紛争で失われていったすべてのいのちの無念さに思いを致し、仏教教団がこそって積極的に協力してきた民族的排外主義と戦争の歴史を率直に振り返り、私たちの非戦の誓いを行動に表したいと思えます。

この戦争展に足を運んで下さったお一人おひとりが、本当の平和の実現をめざして行動を起こして下さることを切に願い、みなさまにご案内をさせていただきます。

【「日本の戦争展」実行委員長 岡西 法英】

詳細は同封のチラシをご覧ください

これからの日程(11/19~12/20)

11月		
19	「日本の戦争展」(~21)	
20	福光教堂報恩講(~21)	
21	中仏生のつどい	全国門徒総追悼法要
22		(~23・本山)
24	財務委員会	
25	親鸞聖人を語る夕べ 長寿苑ビハーラ活動	
26	会館報恩講	
27	聖典セミナー(8回目)	
12月		
1		(~2・本山)
2	雨晴苑ビハーラ活動	
3	常例線打合せ会 保育連盟理事会 仏壮理事会・忘年会 寺女連盟研修会	
7	仏婦常任委・単位会長会議 仏婦ダーナ募金集金日	
8	教区コーラス練習日	教区寺院振興対策連絡協議会(伝道本部)
10	北陸藤の会例会(福井)	
12	中仏生のつどい 連研履修者研修会	
14	常例法座 仏の子どものつどい打合せ	
16	富山解放連研修会	
17	連研のための研修会	
18	組長会	
19	仏の子どものつどい	

ラジオ放送~西本願寺の時間~

『みほとけとともに』

北日本放送(KNB)・73.8kHz.
毎週土曜日(本山制作)午前6:15~6:25
第2・4日曜日(富山・高岡制作)午前6:00~6:10

- 11/14(土): 大塚 雄介 氏(東京都・慈船寺)
「浄土真宗を实践する」
- 11/21(土): 大塚 雄介 氏(東京都・慈船寺)
「愚痴を抱え込まないために」
- 11/22(日): 百山 純哉 氏(富山教区・光蓮寺)
- 11/28(土): 大塚 雄介 氏(東京都・慈船寺)
「仏教を社会に向けて発信しよう」
- 12/5(土): 大塚 雄介 氏(東京都・慈船寺)
「リスナーの声を聴こう」
- 12/12(土): 苗村 隆之 氏(京都府・正住寺)
- 12/13(日): 未 定 (高岡教区)
- 12/19(土): 苗村 隆之 氏(京都府・正住寺)

【西本願寺高岡会館12月の常例法座】

ご講師: 伏 間 彰 彦 氏
(高岡教区・妙万寺)

ご講題: 『真ん中の道』
午後1時20分頃からビデオ上映、2時から
お正信偈六首引のお勤めです。どうぞお誘い
あわせてお参りください。

お知らせ

『法輪せんべい』販売について

お茶菓子やご法事・ご法座の折のお扱いにいかがでしょうか。お申し込み先は下記のとおり。

FAX. でのお申し込みも承ります。どうぞご利用下さい。
一袋二枚入りで価格は次の通り

- 一袋二枚入りで価格は次の通り
- ・特大箱(175袋) 8,300円
- ・大箱(36袋) 2,300円
- ・1組(10袋) 500円

お申込み先は…〒933-0878

高岡市東上関446 高岡教務所内(寺族青年会担当)
Tel.(050)5587-7708(代表) Fax.(0766)21-5152

編集後記

十一月一日、富山マラソンが行われていました。高岡市から射水市(新湊)、富山市を通り、参加者も一万人を超え、非常に盛り上がった大会でした。沿道に出てマラソンを観戦された方、もしくは出場された方もおられるかもしれません。

しかし、私自身、反省した一日でもありません。この日の通行規制に遠回りをさせられ、心を乱されて法務の時間ばかりを気にしてしまい、マラソン開催を迷惑だと思ってしまったのです。改めて、自分中心でしか考えることが出来ない気がつかされたことです。

来年の開催には、心から応援したいと思えます。